

牛久沼のウナギ増やそう！

八間堰水門に魚道設置

県電ヶ崎工務事務所が、牛久沼（龍ヶ崎市の八間堰水門に、二ホンウナギの遡上を助ける魚道を設置し、効果を確認する調査に取り組んでいる。調査は3年目に入り、年度ごとに設置する位置や時期を変えて有効な方を確認中だ。牛久沼はな井の産地地帯と知られるなど、かつてはウナギの産地だったといわれ、魚道が多く、ウナギが戻ってきたらいいかければと関係者は期待している。（安味伸一）

県電ヶ崎工務事務所

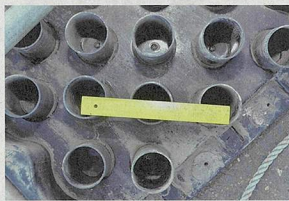
同事務所や調査の受託されていないと、証書社（いであ）横。湧き水による、水門、牛久沼産卵はウナギ（高さ4尺、幅39の漁籠が減った）は、1971年に、て魚道の設置を要望し沼かゝる田に流れる。このな同事を水を調べるため建設、務所が107年度かされた。左右二つのら魚道を設置し、有門扉（ゲート）があり、効性の調査を始めた。ウナギはゲートが閉じ、魚道はウナギ専用でいる。遡上は潮上できないの「フルター」とい。遡槽は一帯が開いて、呼ばれるカナタ製漁道で、ゲート水を通る。を国内で初めて採用しているが、その場合も、円柱状の突起が多数流れが速くなるため、あるが特徴で、ウナ沼上は年間数日か確、きは突起に体を絡め



八間堰水門に取り付けられた魚道（右）のアップ。魚道には、ウナギの産卵を確認するための、すいすい網が取り付けられている。

遡上効果 昨年度は13匹

ること流れに負けず、17匹の調査は8



ウナギ専用魚道。円筒状の突起物が多数固定され、ウナギが身をすり抜けやすい仕掛けだ

ウナギ牛久沼

し、成長した稚魚が川や海へ遡上し、5、10年を過ごした後、産卵のため海に下る。牛久沼への遡上ルートは太平洋（利根川）小川（合川）環瀬省（レッドリスト）では、近い将来に野生での絶滅の危険性が高い絶滅危惧種（B類）に分類されている。牛久沼は全長3.5キロだが龍ヶ崎市域、河川遡上は谷川の一部になっており、県が管理している。

10月魚道完一と直角に取り付けられ、上がったウナギはセロ口だった。18年度は時期を6、9月に変えて設置し、13匹を確認した。

さらに今年度設置場所を変更し、ゲートの側面をつける方法を試している。5月末に取り付け後、今月上旬までに川の遡上が確認され、11月まで続ける予定だ。

同事務所の佐藤彦次郎は「魚道の効果が認められれば漁獲など



八間水門の遡上をうけて増殖したウナギ。県電ヶ崎工務事務所提供

と協議して、連年で設、増やしたいと話している。